

令和8年度

県立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要

和歌山県教育庁学校教育局県立学校教育課

一 般 選 抜

〔 国 語 〕

1 出題方針

- (1) 出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容全般にわたるよう
に配慮した。
- (2) 大問 一 では、漢字について、基本的な書く力、読む力が身についている
かをみるとともに、書写、文法、熟語の構成、古文の基礎的・基本的なこと
がらについて正しく理解できているかをみるようにした。
- (3) 大問 二 では、美術作品の楽しみ方について書かれた文章を読み、内容や
筆者の考えが理解できているかをみるとともに、読み取った内容を適切に表
現する力をみるようにした。
- (4) 大問 三 では、二人の少女が友人となるきっかけを描いた小説を読み、内
容や表現の効果が的確に理解できているかをみるとともに、読み取った内容
を適切に表現する力をみるようにした。
- (5) 大問 四 では、俳句の鑑賞文を書くことで、自分の考えをまとめ、論理的
に表現する力をみるようにした。

2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、53.9点（満点100点）であった。
- (2) 大問 一 では、基本的な常用漢字の読み書き、文法、古文について概ねで
きている。
- (3) 大問 二 では、文章の内容の基本的な読み取りは概ねできているが、資料
と文章を関連づけて、全体を把握する力に課題がみられた。
- (4) 大問 三 では、文章全体を通した内容の理解は概ねできているが、描写を
もとに、筆者や登場人物の心情を理解し、説明することには課題がみられた。
- (5) 大問 四 では、自分の考えを伝えようとする態度はみられたが、条件をふ
まえて自分の考えを表現する力に不十分さがみられた。
- (6) 国語科の指導にあたっては、どのような言語活動を通して、どのような資
質・能力の育成を目指すかを明確にし、思考・判断し表現することで知識や
技能を身につけさせる授業を構想することが大切である。

3 各問題別結果

調査人数 4,814人

問 題			得点者の割合 (%)															
			15点	14点	13点	12点	11点	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点
一	〔問1〕	①													85.6		14.4	
		②													78.9		21.1	
		③													89.8		10.2	
		④													78.4		21.6	
		⑤													49.5		50.5	
		⑥													93.1		6.9	
		⑦													96.1		3.9	
		⑧													99.6		0.4	
	〔問2〕	書写												49.1			50.9	
	〔問3〕	文法												70.5			29.5	
	〔問4〕	熟語												43.9			56.1	
〔問5〕	(1)	古文												81.5		18.5		
	(2)													79.6		20.4		
二	〔問1〕	理解と表現											49.9	8.7	8.8	1.5	31.1	
	〔問2〕	語彙											61.9				38.1	
	〔問3〕	(1)	理解と表現											4.6	10.7	21.7	6.6	56.4
		(2)	理解											33.8				66.2
		(3)	理解と表現									3.2	5.5	13.5	12.9	10.9	5.9	48.0
〔問4〕	理解										50.1					49.9		
三	〔問1〕	理解と表現											19.5	28.9	22.4	9.2	20.0	
	〔問2〕	語彙											83.6				16.4	
	〔問3〕	理解と表現								7.7	5.7	5.0	5.3	15.7	10.7	5.5	2.1	42.3
	〔問4〕	理解と表現										8.7	2.7	5.0	31.1	8.9	2.3	41.2
	〔問5〕	理解										60.5					39.5	
四	表現		6.4	8.4	5.9	6.6	5.5	7.2	5.3	5.2	5.3	3.8	4.9	3.8	1.9	1.9	1.2	26.7

(注) 得点者の割合(%)は、小数第2位以下を四捨五入したものであり、合計が100(%)にならない場合がある。

一 般 選 抜

〔 社 会 〕

1 出題方針

- (1) 出題範囲は、中学校学習指導要領に示されている各分野全般にわたるよう
に配慮した。
- (2) 地理的分野では、世界地理について、地図の活用や気候、産業などについ
て基本的な事項を理解しているかをみるようにした。また、日本地理につい
て、関東地方と九州地方を題材に、自然環境や産業などについて基本的な事
項を理解しているかをみるようにした。
- (3) 歴史的分野では、近代以降におこった戦争や紛争などを題材に、政治や外
交、経済、文化などについて基本的な事項を理解しているかをみるようにし
た。
- (4) 公民的分野では、SDGsなどを題材に、政治や経済、国際社会、環境問題な
どについて基本的な事項を理解しているかをみるようにした。
- (5) 三分野とも、表や図等を題材とし、資料を読み取る力をみるようにした。
また、社会的事象の意味や意義を理解し、その内容を適切に表現する力をみ
るようにした。

2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、50.7点（満点100点）であり、各分野の正答率は、地理
的分野64.7%、歴史的分野48.1%、公民的分野49.9%であった。
- (2) 地理的分野では、昨年と比較して正答率が上昇した。基礎的な知識を問う
問題の正答率は高かったが、表やグラフから必要な情報を読み取り解答を導
く問題の正答率は低かった。
- (3) 歴史的分野では、昨年と比較して正答率が上昇した。基礎的な知識を問う
問題の正答率は高かったが、社会的事象の推移や因果関係をふまえて解答す
る問題の正答率は低かった。
- (4) 公民的分野では、昨年と比較して正答率が上昇した。政治や国際社会、環
境問題に関する問題の正答率は高かったが、経済に関する問題の正答率は低
かった。特に、資料から必要な情報を読み取り解答を導く問題や文章で表現
する問題の正答率が低かった。
- (5) 社会科の指導にあたっては、社会的事象について理解させるとともに、現
代社会の課題や取組について興味・関心をもたせることや、歴史については
大まかな時代の流れと事象の関係性を理解させることが大切である。

3 各問題別結果

調査人数 4,814人

問 題			得点者の割合 (%)			
			3点	2点	1点	0点
1	〔問1〕	(1)		81.0		19.0
		(2)	60.5			39.5
	〔問2〕	49.3			50.7	
	〔問3〕	74.0			26.0	
	〔問4〕		78.0		22.0	
	〔問5〕	65.6			34.4	
	〔問6〕	38.6	9.0	3.3	49.1	
2	〔問1〕		61.1		38.9	
	〔問2〕	82.3			17.7	
	〔問3〕	56.8			43.2	
	〔問4〕	49.3			50.7	
	〔問5〕	46.2	14.5	6.9	32.3	
3	〔問1〕		73.4		26.6	
	〔問2〕	44.4			55.6	
	〔問3〕		38.0	0.2	61.8	
	〔問4〕		33.1		66.9	
	〔問5〕	20.0	7.2	3.1	69.6	
	〔問6〕	43.4			56.6	
	〔問7〕		56.5		43.5	
	〔問8〕	32.3	6.8	5.3	55.6	
	〔問9〕		49.5	0.4	50.2	
4	〔問1〕		83.5		16.5	
	〔問2〕		56.8		43.2	
	〔問3〕		32.2		67.8	
	〔問4〕	43.0	9.1	10.8	37.1	
	〔問5〕	23.9			76.1	
5	〔問1〕	48.0			52.0	
	〔問2〕		84.8		15.2	
	〔問3〕	67.0			33.0	
	〔問4〕	58.9			41.1	
	〔問5〕		41.6	0.4	58.0	
	〔問6〕	12.6	8.2	4.8	74.3	
6	〔問1〕	57.0	8.8	1.8	32.4	
	〔問2〕	48.6			51.4	
	〔問3〕	18.1			81.9	
	〔問4〕		32.1		67.9	
	〔問5〕	58.8	0.3		40.9	
	〔問6〕	46.5			53.5	

(注) 得点者の割合(%)は、小数第2位以下を四捨五入したものであり、合計が100(%)にならない場合がある。

一 般 選 抜

[数 学]

1 出題方針

- (1) 出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている各領域、各学年の指導内容全般にわたるように配慮した。
- (2) 「数と式」の領域では、正の数と負の数の四則計算、文字式の計算、連立方程式の解き方、二次方程式の立式や解き方等についての基礎的な理解力をみるとともに、あることがらを数学的に考察し、説明する能力をみるようにした。
- (3) 「図形」の領域では、投影図や図形の計量などについての基礎的な理解力をみるとともに、図形の性質の証明により、思考や推論の過程を論理的に表現する力をみるようにした。また、円周角の定理や三平方の定理についての学習内容を活用する力をみるようにした。
- (4) 「関数」の領域では、一次関数や関数 $y = ax^2$ 等についての基礎的な理解力をみるとともに、関数と図形の関係を経験的にとらえ、正しく処理し、表現する能力をみるようにした。
- (5) 「データの活用」の領域では、確率の求め方についての基礎的な力をみるようにした。また、与えられた資料を読み取り、正しく処理したり判断したりする力をみるようにした。
- (6) 各領域とも基礎的・基本的な内容の習得ができているかについてみるとともに、数学的な見方や考え方を働かせ、事象を数理的に考察する力をみるようにした。

2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は45.6点（満点100点）であった。
- (2) 「数と式」の領域では、昨年と比較して、基本的な計算の正答率はやや高かった。
- (3) 「図形」の領域では、昨年と比較して、証明問題の正答率は高かった。
- (4) 「関数」の領域では、「図形」の領域との融合問題の正答率は低かった。
- (5) 「データの活用」の領域では、昨年と比較して、確率の問題の正答率は高かった。
- (6) 数学科の指導にあたっては、基礎的・基本的な知識や技能を習得させるとともに、種々の事象を数学的に表現・処理し、問題を解決することが求められる。

3 各問題別結果

調査人数 4,814人

問 題				得点者の割合 (%)							
				7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点
1	〔問1〕	(1)	正の数と負の数					97.6			2.4
		(2)	式の計算					89.8			10.2
		(3)	式の計算					78.1			21.9
	〔問2〕	(ア)	文字を用いた式						77.4		22.6
		(イ)	文字を用いた式						39.3		60.7
	〔問3〕	(絶対値が最も大きい数の記号)	絶対値						63.5		36.5
		(絶対値が最も小さい数の記号)	絶対値						52.7	0.1	47.3
	〔問4〕		平方根					34.3	4.7	0.4	60.6
	〔問5〕		連立方程式				79.9				20.1
	〔問6〕		平面図形				66.2				33.8
〔問7〕		空間図形				58.4				41.6	
〔問8〕		確率				60.9				39.0	
2	〔問1〕	(1)	関数 $y = ax^2$					75.8			24.2
		(2)	関数 $y = ax^2$				36.3				63.7
	〔問2〕		二次方程式		20.9	8.1	4.5	5.4	6.3	9.6	45.3
	〔問3〕	(1)	規則性					71.3			28.7
		(2)	規則性			13.4	2.5	5.7	7.5	6.4	64.4
	〔問4〕	(1)	データの分布				45.5	2.4	24.8	1.3	25.9
(2)		データの分布				45.5				54.5	
3	〔問1〕		一次関数・平面図形				41.3	0.1			58.7
	〔問2〕		一次関数				40.1	0.1			59.8
	〔問3〕		一次関数・平面図形		10.4	0.2	0.2	11.3	4.6	0.5	72.8
4	〔問1〕	(1)	平面図形				51.5				48.5
		(2)	平面図形				5.2	0.4	24.3	1.9	68.3
	〔問2〕		平面図形	14.3	1.5	1.3	1.9	6.9	17.0	10.6	46.5
	〔問3〕		平面図形		4.4						95.6

(注) 得点者の割合(%)は、小数第2位以下を四捨五入したものであり、合計が100(%)にならない場合がある。

一 般 選 抜

[理 科]

1 出題方針

- (1) 出題範囲は、中学校学習指導要領に示されている各分野全般にわたるよう
に配慮した。
- (2) 自然の事物・現象を探究するために必要とされる基礎的・基本的事項につ
いての知識・理解及び科学的な思考力、問題解決能力が身につけているかを
みるようにした。
- (3) 観察・実験を重視し、探究の過程において結果を分析する能力、判断力及
び表現力をみるようにした。
- (4) 第1分野では、状態変化や物体の運動について、基本的事項を理解でき
ているかをみるようにした。また、化学変化と質量の関係や力の合成・分解に
ついて、科学的な思考力と分析力をみるようにした。
- (5) 第2分野では、消化や植物の分類、日本の天気について、基本的事項を理
解できているかをみるようにした。また、植物の体の共通点と相違点や雲の
発生について、科学的な見方や考え方、表現力が身につけているかをみるよ
うにした。

2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、49.5点（満点100点）であった。
- (2) 全般的には、基礎的・基本的な内容を問う問題の正答率は概ね高かったが、
数量の関係を整理して解答する計算問題については正答率が低かった。
- (3) 第1分野では、化学反応式を扱う問題や力のつり合いを矢印で表して考え
る問題の正答率が低かった。第2分野では、植物の分類など知識を直接問う
問題の正答率は高かったが、双眼実体顕微鏡の正しい操作手順を問う問題や
天気分野に関する問題全体の正答率が低かった。
- (4) 理科の指導にあたっては、基本的な知識や技能の確実な定着を引き続き図
るとともに、それらを計算、作図、説明といった場面で活用できる力の育成
が一層求められる。特に、目に見えない事柄をモデル化して理解する力を高
めることが重要である。また、観察・実験においては、見通しをもって活動
に取り組み、得られた結果を整理、比較し、考察する学習を充実させ、操作
の意味や原因と結果の関係に着目するなど、「理科の見方・考え方」を働かせ
ることが大切である。

3 各問題別結果

調査人数 4,814人

問 題				得点者の割合 (%)			
				3点	2点	1点	0点
1	〔問1〕	(1)	太陽と恒星の動き		60.1		39.9
		(2)		89.3		10.7	
	〔問2〕	(1)	水溶液		50.0	0.2	49.7
		(2)		29.2		70.8	
	〔問3〕	(1)	動物の体のつくりと働き		72.4	0.4	27.2
		(2)		60.0		40.0	
	〔問4〕	(1)	電流	71.1			28.9
		(2)			74.3		25.7
2	〔問1〕		植物の体の共通点と相違点		50.2		49.8
	〔問2〕			81.8	0.6		17.6
	〔問3〕			38.4			61.6
	〔問4〕				56.6		43.4
	〔問5〕			21.0			79.0
	〔問6〕				58.0		42.0
	〔問7〕				62.0		38.0
	〔問8〕			54.3	0.3		45.4
3	〔問1〕	(1)	天気の変化 日本の気象		14.1		85.9
		(2)		53.4		46.6	
	〔問2〕			12.4		87.6	
	〔問3〕			13.3	5.9	5.1	75.7
	〔問4〕	(1)		29.3			70.7
		(2)		40.9			59.1
		(3)		48.4			51.6
4	〔問1〕	(1)	状態変化 化学変化と物質の質量	36.4	2.2	0.1	61.3
		(2)		72.1			27.9
		(3)			44.3		55.7
		(4)			53.6	1.1	45.3
		(5)			75.4		24.6
	〔問2〕	(1)		43.1			56.9
		(2)			44.5		55.5
		(3)		62.0	5.4	3.9	28.6
5	〔問1〕	(1)	力の働き 力のつり合いと合成・分解		72.1		27.9
		(2)		61.1		38.9	
		(3)ばねばかり			64.3		35.7
		(3)質量			37.1		62.9
	〔問2〕	(1)		48.3			51.7
		(2)			60.2		39.8
	〔問3〕	(1)		34.8			65.2
		(2)		48.8			51.2

(注) 得点者の割合(%)は、小数第2位以下を四捨五入したものであり、合計が100(%)にならない場合がある。

一 般 選 抜

〔 英 語 〕

1 出題方針

- (1) 出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容全般にわたるよう
に配慮した。
- (2) 英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度が身につ
ているかをみるようにした。
- (3) 題材については、生徒にとって身近なものを使用し、取り組みやすい内容
とした。ロボットとこれからの社会についてのプレゼンテーション、防災に
ついての対話、パラリンピックのメダリストから学んだこと等を取り上げ
た。
- (4) 「音声」の領域では、身近な場面についての基礎的な対話文を聞いて理解
する力をみるとともに、まとまりのある文章を聞いて、その要点を聞きとる
力をみるようにした。
- (5) 「理解」の領域では、英文の内容について、その概要や要点を読み取る
力、話の流れを筋道立てて理解していく力が身につけているかをみるよう
にした。
- (6) 「表現」の領域では、外国語指導助手の2通りの週末の過ごし方を読んで、
自分がどちらの過ごし方をしたいか、その理由を25語以上の英語で自由に表
現させることにより、伝えたい内容を適切に表現する力が身につけているか
をみるようにした。

2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、57.4点（満点100点）であった。
- (2) 「音声」の領域では、文章に沿って適切に聞き取ることは概ねできている
が、まとまった対話から情報を聞き取ることにやや課題がみられた。
- (3) 「理解」の領域では、英文の概要や要点を読み取ることは概ねできている
が、適切に文脈を読み取った上で短い英文で表現することや、適切な語句を
挿入したり要約文を正しく並べ替えたりすることに課題がみられた。
- (4) 「表現」の領域では、英語で自分の考えを相手に伝えようとする態度はみ
られたが、与えられたテーマについて英語で正しく表現する力は、受検者の
間に大きな差がみられた。
- (5) 英語科の指導にあたっては、言語や文化に対する理解を深めるとともに、
聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、実際のコミ
ュニケーションにおいて活用できる技能を身につけさせることが求められ、
日常の授業においても4技能5領域をバランスよく育成する必要がある。

3 各問題別結果

調査人数 4,814人

問 題			得点者の割合 (%)											
			10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点	
1	〔問1〕	No. 1									91.9		8.1	
		No. 2	リスニング									90.5		9.5
		No. 3									58.2		41.8	
	〔問2〕	No. 1	リスニング								82.2		17.8	
		No. 2									82.4		17.6	
	〔問3〕	No. 1								86.5			13.5	
		No. 2								65.6			34.4	
		No. 3	リスニング							53.7			46.3	
		No. 4								68.0			32.0	
		No. 5								77.6			22.4	
2	〔問1〕	(1)	内容理解							71.4			28.6	
		(2)	内容理解							69.1			30.9	
	〔問2〕	(1)	内容理解							66.6			33.4	
		(2)	内容理解							49.3			50.7	
	〔問3〕	(1)	条件作文							21.5	12.0	4.4	62.1	
		(2)	内容理解							64.0			36.0	
3	〔問1〕		内容理解							70.1			29.9	
	〔問2〕	(1)	英問英答						23.7	21.7	6.9	2.0	45.7	
		(2)	英問英答						39.5	11.9	4.6	1.6	42.5	
	〔問3〕		内容理解							82.8			17.2	
	〔問4〕		内容理解						24.3	18.9	8.7	4.3	43.7	
〔問5〕		内容理解							67.0			33.0		
4	自由作文			6.0	11.6	11.2	10.8	9.5	8.1	6.4	3.6	3.3	2.6	26.8
5	〔問1〕	A	内容理解									65.5		34.5
		B	内容理解									42.9		57.1
		C	内容理解									49.6		50.4
	〔問2〕	(1)	英問英答								38.6	8.0	3.1	50.3
		(2)	英問英答								33.5	12.7	3.3	50.5
	〔問3〕		内容理解							24.9	20.3	11.4	3.5	39.9
	〔問4〕		内容理解							42.9				57.1
〔問5〕		内容理解						35.5			46.1		18.5	

(注) 得点者の割合(%)は、小数第2位以下を四捨五入したものであり、合計が100(%)にならない場合がある。